

令和6年度 事業報告書



学校法人武蔵野音楽学園

目 次

I 学校法人武蔵野音楽学園の概要

1	基本情報	1
2	建学の精神・教育方針	1
3	学校法人の沿革	1
4	設置する学校・学部・学科等	3
5	役員の概要	4
6	評議員の概要	4
7	教職員の概要	5

II 事業の概要

1	主な教育・研究の概要	6
2	中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況	9

(1) 法人

- ① 管理運営
- ② 広報活動
- ③ 学生・生徒募集
- ④ SD活動

(2) 大学

- ① 教育研究
- ② 演奏活動
- ③ 社会貢献・地域連携

(3) 附属する学校等

- ① 附属高等学校
- ② 幼稚園(第一・第二・武蔵野幼稚園)
- ③ 附属音楽教室(江古田・入間・多摩音楽教室)

III 財務の状況

令和6年度決算の概要	17
------------	----

I 法人の概要

1 基本情報

(1) 法人の名称

学校法人 武蔵野音楽学園

(2) 主たる事務所

住所 〒176-8521 東京都練馬区羽沢 1-13-1

電話番号 03-3992-1121

ホームページアドレス <https://www.musashino-music.ac.jp>

2 建学の精神・教育方針

武蔵野音楽学園は、建学の精神を「〈和〉のこころ」と定め、教育方針として「音楽芸術の研鑽」と「人間形成」を掲げている。

この建学の精神と教育方針に基づき、音楽芸術についての深い学識と技術を教授し、かつ人間性豊かな人材を育成して、広く我が国の文化芸術の振興に寄与することを目的としている。

加えて、礼儀 (Propriety)、清潔 (Purity)、時間厳守 (Punctuality) の3つに基づく生活の規範を平素の生活において、学生のみならず、教職員にも実践することを求めている。

3 学校法人の沿革 (幼稚園及び附属音楽教室を除く)

昭和 4(1929)年	武蔵野音楽学校設置認可
昭和 7(1932)年	財団法人及び専門学校令による武蔵野音楽学校設置認可
昭和 17(1942)年	教員無試験検定取扱い許可学校に指定
昭和 19(1944)年	私立専門学校整備に関する文部省専門教育局長通達により「武蔵野女子音楽学校」に校名変更
昭和 21(1946)年	男子生徒入学再開
昭和 24(1949)年	武蔵野音楽大学音楽学部設置認可
昭和 25(1950)年	短期大学部第2部設置
昭和 26(1951)年	財団法人武蔵野音楽学校から学校法人武蔵野音楽学園へ組織変更、大学別科 設置認可
昭和 27(1952)年	短期大学部第1部設置
昭和 28(1953)年	大学及び短期大学部に専攻科設置
昭和 29(1954)年	教育職員免許法に定める課程 (教職課程) 認定
昭和 30(1955)年	江古田キャンパス1号館竣工
昭和 33(1958)年	音楽学部第2部設置
昭和 35(1960)年	江古田キャンパスにコンサートホール「ベートーヴェンホール」竣工
昭和 39(1964)年	大学院音楽研究科修士課程設置 (器楽専攻、声楽専攻、作曲専攻)
昭和 40(1965)年	音楽学部音楽学学科及び音楽教育学科設置
昭和 42(1967)年	江古田キャンパスにコンサートホール「モーツァルトホール」竣工、「武蔵野音楽大学楽器博物館」開館

昭和 44(1969)年	大学院音楽研究科修士課程に音楽学専攻、音楽教育専攻設置
昭和 46(1971)年	入間キャンパス開設
昭和 48(1973)年	武蔵野高等学校開校
昭和 51(1976)年	大学音楽学部 入間キャンパスにて授業開始、 入間キャンパスに「図書館・楽器博物館棟」竣工
昭和 54(1979)年	入間キャンパスにコンサートホール「バッハザール」竣工
昭和 58(1983)年	短期大学部第 2 部廃止
昭和 61(1986)年	短期大学部第 1 部廃止
平成 元 (1989)年	音楽学部第 2 部廃止
平成 5(1993)年	音楽教育研究施設「武蔵野音楽大学パルナソス多摩」開設、同施設にコンサート ホール「シューベルトホール」竣工
平成 16(2004)年	大学院音楽研究科博士後期課程設置
平成 17(2005)年	武蔵野高等学校を武蔵野音楽大学附属高等学校に校名変更
平成 18(2006)年	音楽学部 ヴィルトゥオーソ学科設置、「武蔵野音楽大学楽器博物館」 博物館相当施設に指定（東京都教育委員会）
平成 19(2007)年	音楽学部音楽環境運営学科設置、博物館法に定める学芸員課程設置
平成 22(2010)年	大学院音楽研究科修士課程器楽専攻・声楽専攻にヴィルトゥオーソコース設置
平成 23(2011)年	大学別科募集再開
平成 24(2012)年	「武蔵野音楽学園江古田新キャンパスプロジェクト」の進行に伴い、「武蔵野音楽 大学楽器博物館」博物館相当施設の指定解除
平成 27(2015)年	「武蔵野音楽学園江古田新キャンパスプロジェクト」の進行に伴い、コンサートホ ール「ベートーヴェンホール」を除く江古田校舎解体
平成 29(2017)年	江古田キャンパス内のベートーヴェンホールを除くすべての校舎の新築工事の竣 工、ベートーヴェンホールの耐震補強工事を含む改修工事ならびにむらさき寮の 耐震補強工事の完了 武蔵野音楽大学音楽学部の 7 学科組織から 2 学科組織への再編・統合による演奏 学科・音楽総合学科設置
平成 30(2018)年	大学院音楽研究科修士課程にピアノコラボレイティブアーツコース設置
令和 2(2020)年	大学院音楽研究科博士後期課程の研究領域（器楽）有鍵楽器研究分野ピアノコラ ボレイティブアーツ設置
令和 3(2021)年	武蔵野音楽大学楽器ミュージアム開館
令和 5(2023)年	武蔵野音楽大学附属高等学校 東京都への「設置認可（設置計画承認）」申請
令和 6(2024)年 1 月	学生レジデンス「Flügel」竣工
令和 7(2025)年 1 月	武蔵野音楽大学附属高等学校新校舎建設工事着工

4 設置する学校・学部・学科等

武蔵野音楽大学

音楽学部

演奏学科：器楽コース・声楽コース・ヴィルトゥオーゾコース

音楽総合学科：作曲コース・音楽学コース・音楽教育コース・アートマネジメントコース

大学院音楽研究科（修士課程）

器楽専攻：器楽コース・ヴィルトゥオーゾコース・ピアノコラボレィティヴアーツコース

声楽専攻：声楽コース・ヴィルトゥオーゾコース

作曲専攻

音楽学専攻

音楽教育専攻

大学院音楽研究科（博士課程）

音楽専攻：研究領域（器楽・声楽・作曲・音楽学・音楽教育）

別科：器楽コース 声楽コース 作曲コース 指揮コース

武蔵野音楽大学附属高等学校

音楽科：鍵盤楽器専攻 管楽器専攻 打楽器専攻 弦楽器専攻 声楽専攻 作曲専攻

武蔵野音楽大学第一幼稚園

武蔵野音楽大学第二幼稚園

武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園（令和7年3月末をもって閉園）

5 役員の概要 (令和6年4月1日現在)

理事の定数 5～7人 現員数 5人

監事の定数 2人 現員数 2人

	氏 名	常勤・非常勤	就任年月日
理事長	福 井 直 敬	常 勤	理事長 平成10年2月24日 理 事 昭和54年1月30日
理 事	福 井 直 昭	常 勤	平成22年3月1日
理 事	石 丸 雍 二	非常勤	平成26年4月1日
理 事	古 池 好	非常勤	令和4年3月1日
理 事	野 村 邦 武	非常勤	平成20年4月1日
監 事	小 林 央	非常勤	令和6年2月28日
監 事	濱 田 芳 貴	非常勤	平成27年2月26日

役員賠償責任保険契約の状況

私大協役員賠償責任保険に継続加入しております。

責任の免除・責任限定契約

本学園寄附行為第42条責任の免除、第43条責任限定契約に記載しております。

6 評議員の概要 (令和6年4月1日現在)

評議員の定数 11～15人 現員数 12人

氏 名	常勤・非常勤	就任年月日
福 井 直 敬	常 勤	昭和57年3月3日
福 井 直 昭	常 勤	平成17年4月1日
秋 田 賀 文	非常勤	平成31年3月1日
石 丸 雍 二	非常勤	平成21年3月4日
上 原 正 子	非常勤	平成28年3月1日
古 池 好	非常勤	平成17年4月1日
重 松 聡	常 勤	令和5年4月1日
末 吉 孝 司	常 勤	令和2年4月1日
富 山 英 明	非常勤	平成28年3月1日
長 尾 立 矢	非常勤	令和4年3月1日
野 村 邦 武	非常勤	平成20年4月1日
本 庄 忍	常 勤	令和4年7月1日

7 教職員の概要 (令和6年5月1日現在)

	学校	本務	兼務	計	平均年齢
教 員	大学・大学院	58	213	271	57.7
	附属高等学校	6	11	17	48.5
	第一幼稚園	7	0	7	41.1
	第二幼稚園	8	0	8	40.4
	武蔵野幼稚園	3	0	3	42.3
	附属音楽教室	0	72	72	48.1
	計	82	296	378	46.3
職 員	大学・大学院	79	10	89	49.6
	附属高等学校	1	0	1	44.0
	第一幼稚園	0	3	3	46.7
	第二幼稚園	0	1	1	59.0
	武蔵野幼稚園	1	5	6	50.2
	附属音楽教室	5	1	6	46.5
	計	86	20	106	49.3

Ⅱ 事業の概要

1 主な教育・研究の概要

武蔵野音楽大学、武蔵野音楽大学大学院音楽研究科の3つの方針は、次のとおりです。

(1) 武蔵野音楽大学

① 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

武蔵野音楽大学音楽学部（学士課程）の目的に基づき、4年以上在学して124単位以上を修得し、以下の知識・能力等を身につけたと認められる者に、学士（音楽）の学位を授与します。

1. 専攻分野における基礎的な知識・能力に加え、専門的な能力（演奏学科では演奏能力、音楽総合学科の作曲コースでは創作能力、音楽学コースでは研究能力、音楽教育コースでは教育能力、アートマネジメントコースではアートマネジメント能力）を身につけている者。
2. 正課の授業および正課外でのさまざまな学修体験を通して、豊かな人間性と学修に対する継続的な強い意欲を身につけている者。
3. 自ら考え、創造する能力を育成し、予測することが困難な社会の諸課題に対応できる判断力、コミュニケーション能力等を身につけている者。

② 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

武蔵野音楽大学の教育方針である「音楽芸術の研鑽」と「人間形成」を具現するため、音楽学部全2学科に、必修科目、選択科目、自由科目を開講し、各コースの教育目的に合うよう、以下のようカリキュラムを編成します。

1. 授業科目は原則として4学年を8つに区分したセメスターごとに開講し、各専攻分野に求められる知識、能力等を段階的、体系的に修得できるよう編成します。この際、教養科目は必修科目および自由科目の一部として、全学年を通して履修を可能とします。
2. 専攻実技科目については、個人レッスンにより技量の向上を図るとともに、さまざまな研究発表・演奏等の機会を設け、実践的な体験を積み重ねます。また、成績評価は実技試験等の結果を踏まえ、別に定めた評価基準により行います。
3. クラス授業科目については、開設科目の特性および到達目標を踏まえたクラス編成による授業を通して、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション等を重視した教育方法を積極的に導入します。また、成績評価は定期試験等の結果を総合的に勘案し、別に定めた評価基準により行います。
4. 教育的見地から、年次ごとの履修単位の上限を定め、かつ3年次への進級に際しては修得すべき単位を定めた進級基準を設けます。

③ 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

武蔵野音楽大学の建学の精神「〈和〉のこころ」、および教育方針である「音楽芸術の研鑽」と「人間形成」に共感する以下のような学修意欲と能力を備えた者を、各コースの専攻別科目、共通科目、面接、調査書等による多面的・総合的な入学者選抜によって選抜します。

1. 本学の建学の精神と教育方針のもとで学修するに相応しい、豊かな人間性を有する者。
2. 音楽を主体的に学び深めることにより、音楽の美を探究する意欲のある者。
3. 専攻の学修に必要な能力と基礎的学力、および思考力、判断力を備えた者。

(2) 武蔵野音楽大学大学院音楽研究科（修士課程）

① 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

武蔵野音楽大学大学院音楽研究科の目的に基づき、以下のように、高度な知識および技術を身につけたと認められる者に学位を授与します。

本学大学院学則第4条第1項に基づき、2年以上在学し、30単位以上を修得した上で、専攻実技の修了試験、修士論文の審査に合格した者に修士（音楽）または修士（音楽学）の学位を授与します。なお、ヴィルトゥオーゾコースは、修士論文を課すことなく、学位審査演奏に合格した者に修士（音楽）の学位を授与します。

② 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

武蔵野音楽大学大学院音楽研究科は、専門的かつ広い視野に立ち、音楽芸術の分野について高度な学識と技術を体系的に教授研究する目的で、以下のようにカリキュラムを編成します。

1. 次の専攻ごとの必修科目は学年制とします。

- (1) 器楽専攻、声楽専攻、作曲専攻の専攻研究および作品研究
- (2) 音楽学専攻、音楽教育専攻の専攻研究および総合演習

2. 修士論文については、次の専攻ごとの必修科目で、論文等作成の指導を行い提出させます。

なお、ヴィルトゥオーゾコースは、演奏家養成に対応した科目を開講し、修士論文等の提出は課しません。

- (1) 器楽専攻、声楽専攻、作曲専攻の修士論文基礎および修士論文演習または楽曲研究表現演習
- (2) 音楽学専攻、音楽教育専攻の修士論文基礎および専攻研究

3. 器楽専攻、声楽専攻では公開の演奏試験を、作曲専攻では公開の作品演奏試験を課します。ヴィルトゥオーゾコースは、毎年次リサイタル形式の演奏試験を課します。

4. 高等学校教諭一種免許状（音楽）および中学校教諭一種免許状（音楽）を取得している者は、所定の単位を修得することで、高等学校教諭専修免許状（音楽）および中学校教諭専修免許状（音楽）を取得することができます。

③ 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

武蔵野音楽大学の建学の精神「〈和〉のこころ」および教育方針である「音楽芸術の研鑽」と「人間形成」に共感する以下のような探究意欲と能力を備えた者を、入学者選抜によって選抜し受け入れます。

- 1. 音楽芸術の分野についての高度な学識と技術の探究に、真摯に取り組む意欲のある者。
- 2. 広い視野に立ち、創造的な演奏および研究活動を行うに必要な資質を備えた者。
- 3. 本学の建学の精神と教育方針のもとで学修するに相応しい、豊かな人間性を有する者。

(3) 武蔵野音楽大学大学院音楽研究科（博士後期課程）

① 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

武蔵野音楽大学大学院音楽研究科の目的に基づき、以下のように、高度な知識および技術を身につけたと認められる者に学位を授与します。

本学大学院学則第4条第2項に基づき、3年以上在学し、10単位以上を修得した上で、演奏あるいは作品の修了試験、博士論文の審査に合格した者に博士（音楽）または博士（音楽学）の学位を授与します。

② 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

武蔵野音楽大学大学院音楽研究科は、専門的かつ広い視野に立ち、音楽芸術の分野について高度な学識と技術を体系的に教授研究する目的で、以下のようにカリキュラムを編成します。

1. 博士論文については、研究領域ごとの必修科目である研究領域研究指導および研究領域論文演習で、論文作成の指導を行い提出させます。
2. 前項の論文に加え、器楽および声楽の研究領域では公開の演奏試験を、作曲の研究領域では公開の作品演奏試験を課します。

③ 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

武蔵野音楽大学の建学の精神「〈和〉のこころ」および教育方針である「音楽芸術の研鑽」と「人間形成」に共感する以下のような探究意欲と能力を備えた者を、入学者選抜によって選抜し受け入れます。

1. 音楽芸術の分野についての高度な学識と技術の探究に、真摯に取り組む意欲のある者。
2. 広い視野に立ち、創造的な演奏および研究活動を行うに必要な資質を備えた者。
3. 本学の建学の精神と教育方針のもとで学修するに相応しい、豊かな人間性を有する者。

2 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

武蔵野音楽学園第7期中期計画（令和5年度～令和11年度）に基づき、令和6年度事業は教育関連法令及び本学園の寄附行為の定めに従い教育を行ない、社会の要請に応えうる人格豊かな人材を育成し、我が国の文化芸術の振興に寄与するため、下記の事業を重点目標に掲げ、各種事業を推進した。

- (1) 附属高等学校の東京都への移転計画の推進
- (2) 学生・生徒・園児募集活動の強化
- (3) 大学・附属高等学校・幼稚園・附属音楽教室の教育研究の充実・向上
- (4) 財務・経営基盤の充実と強化
- (5) 大学機関別認証評価結果を踏まえた改善・充実
- (6) 新学生寮（女子寮）「Flügel」の円滑な運営
- (7) 武蔵野幼稚園の閉園

令和6年度事業計画の進捗・達成状況は、次のとおりである。

(1) 法人

① 管理運営

ア. 寄附行為の申請と認可等

令和7年4月1日施行の改正私立学校法に基づく寄附行為変更認可申請が令和7年1月24日付で文部科学大臣に認可され、私立学校法第63条の2に基づき、改正後の寄附行為を公表した。

また、私学法改正に伴う内部統制システムの整備を行った。

イ. 武蔵野音楽大学附属高等学校の東京都への移転計画の推進

新校舎建設地に既存の旧女子学生寮の解体工事が計画通り進み、次年度の建築準備を整えた。新校舎は、設計コンセプトに「気づきと創造力をもたらし空間」を掲げており、校内全体が学習と交流が融合し、思いが合う環境となる。また、複層ガラスを採用するなど、SDGsへの取り組みにも配慮した教育空間を実現する。

ウ. 東京都教育委員会との連携協力に関する協定を締結

令和6年11月6日、本学の音楽分野における専門的な教育力及び研究力を活用した東京都内の公立中学校等の部活動の地域連携・地域移行の実現に向けた支援等に関する連携協定を締結した。

エ. 武蔵野音楽大学コンコルディア奨学金の給付及び助成事業

令和6年4月の大学特別オペラ公演「ジャン＝カルロ・メノッティ作 ヘルプ！ヘルプ！宇宙人が襲ってきた！」の助成事業を行い、本奨学金受給記念コンサートとして国内外で活躍中の本学卒業生によるリサイタルを開催した。

オ. 大学設置基準の改正に伴う基幹教員制度の導入の準備

主要授業科目と担当教員について、学内での各委員会を経て決定した。また、教育研究活動、教育課程の編成、大学運営に関わる重要な活動についての詳細を確認し、次年度からの制度導入に向けて準備を進めた。

カ. 研究不正防止に関する活動

文部科学省「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づく

研究不正防止活動について、「研究不正防止ガイドブック」を作成し、理事会やFD委員会での報告、説明を行ったほか、「コンプライアンス研修」を実施し学内に周知した。

キ. 施設・設備の整備

学内コンサートホールの外壁補修工事、教育研究機器の更新等を行った。

ク. 危機管理体制の整備

危機管理マニュアルを更新し、現代社会において必要なコンプライアンス遵守、情報流出への対策、ハラスメント事象への対応など、起こり得る多様な事象に対応する危機管理体制を整備した。

② 広報活動

ア. 大学ウェブサイト、キャンパスガイドのリニューアル

ウェブサイトのトップページの動画を更新したほか、教員やコンクール入賞者の紹介、オーケストラ入団者や卒業生へのインタビュー等、受験生、保護者、卒業生の関心が高いページの内容を充実させた。

大学のキャンパスガイドは、授業紹介ページを新設、キャンパスライフを紹介するページや学生や講師を紹介するページを拡充するなどリニューアルした。

附属高校のスクールガイドは、令和9年度に東京都へ移設する新校舎の紹介や新たな教育内容を紹介するページを設けた。

イ. SNS の運用

オペラ、ウィンドアンサンブル、管弦楽団等のリハーサル風景、指揮者のインタビューなどのCMムービーを作成した。本学主催の演奏会の様子を中心に公開内容を拡充し、公式SNSでの発信を強化した。

③ 学生・生徒募集

ア. 大学

学生募集活動として、オープンキャンパスや地方都市での学校説明会、中高生のためのステップアップ・プログラム、進路ガイダンス等への講師派遣、入学者選抜直前対策、大学院進学説明会を実施した。留学生募集に関しては、志願者獲得のための説明会や進路ガイダンスを実施した。

イ. 附属高等学校

生徒募集活動として、オープンキャンパス、高校説明会、音楽基礎講座、入試対策直前講座を実施した。また、各イベントにて、令和9年度の東京都への移設、新設されるコース制や新カリキュラムについて説明した。

ウ. 附属音楽教室

各音楽教室（江古田・入間・多摩）での体験教室を実施し、楽器体験レッスンやクラス授業体験としてオルフやソルフェージュを行った。

④ SD活動

ア. 職員研修会の実施

全職員、大学教員、高校教員、幼稚園教諭を対象に研修会を実施。学長より建学の精神、教育方針、管理運営、重要な事業計画、業務運営上の留意すべき事項等についての説明、「私立学校法の改正」「大学入学者選抜の状況」「附属高校の移転についてとカリキュラム内容」などについての講話があった。

イ. 部署別研修会の実施

学園の各部署において、特性に応じた業務運営のあり方と自己の職責を通じた職務遂行能力の向上について協議した。

(2) 大学

① 教育研究

ア. 教育

○大学機関別認証評価結果を踏まえた改善・充実

令和3年度に受審した認証評価結果からの改善・向上方策を、第7期中期計画（令和5年度～令和11年度）及び年度事業計画に反映させ、自己点検・評価にも活用しながら改善・充実に継続し、次期認証評価受審に向けての準備を進めた。

○入学者選抜

入学者選抜区分ごとの募集人員を変更するほか、実施回数を次のとおり決定した。

総合型選抜の募集人員を80名から90名、実施回数を2回から4回、一般選抜の募集人員を100名から90名、実施回数を3回から2回に変更した。また、試験区分、学科、コース等の試験科目数に併せて、検定料の見直しを行った。

○大学教育課程の一部改正

演奏学科における第2副科の新規開設、音楽総合学科の副科実技の科目名称の統合、第3年次の「西洋音楽史」の科目種別変更、「鍵盤音楽史」を自由科目へ追加することについて決定した。

○大学院教育課程の一部改正

音楽学部のみ開設している「指揮」について、大学院修士課程の全専攻を対象に開設した。

○入学前教育の充実

合格発表から入学までの知識や技能の修得、音楽表現の向上、学修意欲の維持・向上を目的とし、課題提出形式での入学前教育を実施した。

○学生による授業評価アンケートの実施と結果の反映

授業内容及び教育方法のさらなる改善・向上に資することを目的として、レッスン・クラス授業について授業評価アンケートを実施した。また、その調査結果をもとに各教員が「授業改善向上計画書」を作成し、FD委員会において具体的な改善と全学的な教育の質保証へ繋げる取り組みを進めた。

○研究活動

大学研究紀要については、12名の申込みがあり、紀要委員会において審査した結果、9本の論文、2本の研究レポート（執筆者12名）を「武蔵野音楽大学研究紀要 第55号」として発表した。

科学研究費については、令和7年度は12件の申請があり、基盤研究（C）が3件採択された。その他、5件は過年度に採択された研究を継続している。

イ. 学生支援

○キャリアサポート

教員との連携により、就職・進学等のサポートを実施した。

就活セミナー、業種別ガイダンス、企業等説明会、インターンシップに関する指導、教員・音楽教室講師希望者対象の特別講座、教員採用試験対策等を実施するほか、個別相談、面接指導等、学生のニーズに対応した支援を充実し、幅広いキャリアプランに対応した支援を行った。

また、留学生のキャリア支援についても充実させた。

○留学生支援体制

学内委員会において「外国人留学生に対する学修及び学生生活の支援に関すること」を検討し規則に反映させたほか、学内での連携により環境の変化に対応した学内支援体制の見直しを図った。

○学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

個人面談や各種アンケートを実施し、学生生活に関する満足度や問題点、改善点を把握し、結果

について関係部署で共有し、改善向上を図った。

また、「学生満足度調査」と「留学生アンケート」における学生からの質問や要望に関する対応として、すでに実施した改善点や、今後予定している改善内容をフィードバックとしてまとめ、全学部生に公表した。また、全教職員にも同様に公表し、情報を共有した。

○障害者支援

大学の基本方針に基づき、個別の要望や状態・特性に応じた支援方法を決定し、実施した。

委員会の決定に基づき、障害のある学生に対する支援体制を整備し、入学者選抜における合理的配慮の提供に関する情報と併せて公表した。

○休学・退学の防止のための指導・支援

学生相談・面談・カウンセリング等を通じて経済面、修学面をはじめとする学生が抱える悩み・問題の早期把握に努めた。また心身の健康に関する問題について、主に保健室及び心理カウンセリングで対応したほか、個人レッスンを特徴とした本学の指導・支援体制にて対応した。

ウ. FD活動

○大学全教員・主任以上職員研修会

学園の全教員・主任以上職員を対象とした研修会を3月に実施し、学園の教育方針、主要な事業計画、管理運営や業務運営上留意すべき事項、基幹教員制度、入学者選抜の状況等について教職員全体で情報共有を図った。

○部会単位のFD活動

各部会の教育内容やその方法の質の向上を図るため、部会単位のFDを実施した。また、各部会で取り組んだFD実施事項及び分析結果をFD委員会で発表し審議を行い、部会間の共通課題について共有を図り、教授方法及び教育の質の改善に取り組んだ。

エ. 図書館・楽器ミュージアム・歴史展示室

○図書館

・研究支援（学術情報資源の維持及び整備）

電子リソースの整備と学術資料の体系的な収集と蓄積のため、契約中のデータベースの利用状況を調査し、次の利用促進を目的とした策を講じた。ユニバーサルパスポートやSNSを活用し、データベースの操作方法の講座、外部講師によるオンライン講座を開催した。

・学修支援

カリキュラムに基づいた学修支援講座として、新入生向けガイダンスや資料の活用法等の各種講座を実施した。

・機関リポジトリによる研究成果の充実と外部機関との学術情報の共有

機関リポジトリのコンテンツの発信及びNIIとの連携による目録データベースの質の向上及びオンライン共同分担目録方式により、全国規模の総合目録データベースの形成及び他大学図書館等との書誌情報と所在情報を共有することで、学術情報の向上を図った。令和6年度に計画した目録作成、書誌情報の登録作業は完了し、新着資料については、所属登録時にNIIへのアップロードを行った。

○楽器ミュージアム

・所蔵楽器の保守・点検・修復

江古田・入間両キャンパスにおける所蔵資料の点検を計画的に実施して、位置台帳を更新した。また、必要に応じて楽器のメンテナンスを行った。

・授業活用、公開・教育普及活動

学内においては、学芸員課程や音楽学コース、アートマネジメントコース、附属高校授業での活用、学芸員実習の実施のほか、「視覚障害者のための館内ガイドブック」を製作した。また、学外対応として、学校などの各種団体などを受け入れ、ガイドツアーを行った。このほか、大学

共催事業として、「子ども音楽大学いるま」の中で、講義やワークショップ、ミュージアム見学などを実施した。

・調査研究・展示協力

学内修士論文に協力したほか、学外研究者の楽器調査に協力した。また、根津美術館の特別展「百草蒔絵葉巻笛と飯塚桃葉」（令和6年11月2日～12月8日）に所蔵楽器を出展した。

○歴史展示室

調査した史料をもとに展示資料を確定し、写真のパネル及び解説やキャプションを製作しながら、展示作業を進めた。

オ. 参考データ（大学）

学生に関する情報

【学生数等】（令和6年5月1日現在）

学部・研究科等	入学定員	入学者数	収容定員	現員数	収容定員 充足率
音楽学部	300	224	1,210	913	75.5%
音楽研究科博士前期課程 （修士課程）	65	101	130	187	143.8%
音楽研究科博士後期課程	10	4	30	17	56.7%
別 科	80	75	80	75	93.8%

② 演奏活動

本学主催による演奏会・公開講座・学生によるコンサートを約80回開催したほか、外部主催の演奏会等に参加した。

○武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会

令和6年9月24日 東京芸術劇場 コンサートホール
 令和6年9月27日 富山県オーバードホール
 指 揮＝和田 一樹 ピアノ＝本学学生オーディション合格者
 令和6年11月26日 東京オペラシティ コンサートホール
 指 揮＝現田 茂夫

○武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会

令和6年7月6日 熊本県立劇場 コンサートホール
 令和6年7月16日 東京芸術劇場 コンサートホール
 指 揮＝ジェームズ M. ランブレクト
 令和6年12月9日 武蔵野音楽大学ベートーヴェンホール
 指 揮＝飯森 範親

○武蔵野音楽大学特別オペラ公演

メロッティ作曲 《ヘルプ！ヘルプ！宇宙人が襲ってきた》
 令和6年4月28日・29日・30日 武蔵野音楽大学ブルームスホール
 指 揮＝佐藤 正浩 演出＝岩田 達宗 管弦楽＝武蔵野音楽大学管弦楽団

○室内合唱団演奏会

令和6年12月3日 武蔵野音楽大学ベートーヴェンホール
 指 揮＝片山 みゆき、佐藤 洋人

○本学同窓会岡山県支部創立60周年記念演奏会

令和6年12月15日 岡山芸術創造劇場 ハレノワ中劇場
 指 揮＝藤井 宏樹
 武蔵野音楽大学同窓会岡山県支部 武蔵野音楽大学室内合唱団

○コンコルディア奨学金受給記念コンサート

令和6年10月3日 武蔵野音楽大学ブラームスホール
土屋 優子 ソプラノ・リサイタル ピアノ＝谷川 瑠美

○入間市「市民コンサート」

令和6年10月5日 武蔵野音楽大学バッハザール
指揮＝北原 幸男 管弦楽＝武蔵野音楽大学管弦楽団
チェロ＝本学学生オーディション合格者

○学生によるコンサート

- ・新人演奏会（大学音楽学部卒業生、大学院修士課程修了生）
- ・卒業演奏会
- ・ニュー・ストリーム・コンサート
- ・選抜学生コンサート
- ・ウィンドオーケストラ授業発表
- ・シンフォニックバンド授業発表
- ・コンサートバンド授業発表
- ・フルートオーケストラ授業発表
- ・混声合唱授業発表
- ・室内楽演奏会
- ・大学院修士課程在学学生によるコンサート
- ・オペラ試演会
- ・アートマネジメントコース企画制作公演
- ・学生による演奏会
- ・授業研究発表
- ・選抜学生コンサート

○教員・演奏家による公開講座

- ・ロバート ダヴィッドヴィッチ ヴァイオリンリサイタル ピアノ＝岡崎 悦子
- ・ケマル ゲキチ ピアノリサイタル
- ・イリヤ イーティン ピアノリサイタル
- ・坂東玉三郎 特別招聘教授 公開講座
- ・崔 文洙 ヴァイオリン コン서트&公開レッスン ピアノ＝イリヤ イーティン

③ 社会貢献・地域連携

○社会人に向けた講座の実施

本学が主催する社会人向けの講座として、「免許法認定講習」、「音楽指導者のためのセミナー」、楽器や声楽指導者対象の「指導法講座」を開催した。

○武蔵野音楽大学同窓会との連携

全国に49支部と海外3カ国に支部を持つ「武蔵野音楽大学同窓会」は、各地での卒業生の研究や演奏活動を継続し、地域の文化発展に寄与している。また、各支部と大学が連携し、多くの演奏活動や公開講座等を継続して実施した。

○地域連携コンサート等の開催

本学学生が地方自治体、財団、学校等の演奏会において演奏した。（約30回）

- ・練馬区：四季の香ローズガーデンクリスマスコンサート・練馬区商店街連合会演奏会
石神井公園ふるさと文化館サロンコンサート
栄町音楽会・練馬区防災まつり音楽会・練馬区老人クラブ連合会コンサート
- ・中野区：中野友愛クラブコンサート・秋のことぶき会コンサート
中野区シルバー人材センターシルバー祭りコンサート
- ・港区：0歳からのファミリーコンサート・麻布区民センター0歳からのコンサート
- ・入間市：こども音楽大学いるま・三井アウトレット入間クリスマスコンサート
文化創造アトリエ AMIGO!「武蔵野音楽大学の名手たち」
- ・財団他：キスポーツ財団主催：0歳からのコンサート・音楽のさんぽ道
やおやコドモくりにつくコンサート

- ・企業：飯野ビルランチタイムコンサート・西武リアルティソリューションズコンサート
江古田キャンパスプロジェクト駅前演奏会・きらぼし銀行クリスマスコンサート
- ・学校関係：さざんか荻窪教室音楽会・練馬区立開進第二小学校 PTA 演奏会

○「全日本音楽教育研究会全国大会」の開催

本研究会は、本学に事務局本部を置いており、小・中・高の音楽科教育に加え、大学の教員養成教育も包括する会員総数全国約3万人の組織で、音楽教育の研究実践に貢献している。毎年〈全国大会〉を開催し、全国第7地区の大会の後援と「NHK 全国音楽コンクール」の主催等を行っているほか、令和6年度は、大学部会を本学にて9月に、小中高校の全国大会を北海道で10月に開催し、それらの開催に深く協力した。

○練馬区・本学共催公開講座の実施

練馬区民の学習機会の充実を図ることを目的として、作曲の佐藤誠一准教授（作曲・音楽理論による『唱歌「ふるさと」～音楽と言葉の関わり～』）をテーマとした講座を本学プラザホールで開催した。

○パプアニューギニア国防軍軍楽隊員の受入れ

防衛省からパプアニューギニア国防軍軍楽隊に対する能力構築支援招聘事業（軍楽隊育成）を受託され、本学及び陸上自衛隊中央音楽隊において、編曲者に必要な知識及び技術に関する指導を行い、基礎的な編曲能力を付与した。また、コンサート等の研修や器楽実技等を通じて、軍楽隊員としての総合的な能力向上について、研修や指導を行った。

（３） 附属する学校等

① 附属高等学校

○新たな教育プログラムの検討

・新カリキュラムの検討

令和9年度より導入予定の新コースについて、カリキュラムの細部にわたる項目を大学教員と検討を続け教育内容の充実を図った。また、開始後の時間割や問題点について整理した。

・高大連携の充実

大学の専門科目に加え、外国語や自由科目についても履修できるよう、科目の充実を図った。また、教育内容、教育効果、教育環境の整備についても、引き続き検討していく。現在実施している高大連携科目について、履修した生徒によるアンケートの結果や大学教員の意見について検証・分析を行い、次年度に向け引き続き検討した。

○音楽活動の充実と国際交流・地域交流の推進

学内演奏会として、入間キャンパスや大学内ホールでの各種コンサート、オープンキャンパスや受験講習会など、様々な形態によるコンサートを開催し、演奏を披露した。また、団体や教育機関からの演奏依頼に協力することにより、国際交流及び地域社会と連携した教育活動、社会貢献活動を行い、生徒の地域活動を推進した。

○防災教室、避難訓練の実施

安全管理体制を図り、災害時に的確に対応ができるよう避難訓練を実施したほか、外部講師による薬物乱用防止教室やSNSトラブル防止教室を実施し、防災意識やモラルを適切に判断する能力の向上に努めた。

○埼玉県への収容定員に係る学則変更認可申請と移転計画

令和7年度の収容定員変更に向けて7月に申請を行い、11月付で認可された。
また、令和9年度の東京都への移転計画について、7月に提出した。

② 幼稚園(第一・第二・武蔵野幼稚園)

○園児教育・保育内容の充実

音楽大学附属としての特性を活かし、音大生の演奏を実施し、保育活動の中での音楽教育を充実させた。課外授業として、体操教室、キッズダンス、学研の教室を開催した。

教職員対象に、附属音楽教室講師による指導法講座とワークショップの開催、オルフ・メソード及びソルフェージュの研修を実施し、保育内容の充実を図った。

○未就園児親子への幼児教育の提供

日常保育の様子を定期的に発信すると共に、プレ幼稚園でのオルフ保育など音楽大学附属としての魅力をアピールした。

○武蔵野幼稚園の閉園

令和7年3月9日に挙行了した、武蔵野幼稚園閉園セレモニーは、大学コンサートホールにおいて、卒園生によるコンサートを開催したほか、53年間の歴史をしのぶ記念誌を作成し配布した。

③ 附属音楽教室(江古田・入間・多摩音楽教室)

○講師研究会・講師演奏会の実施

講師の演奏技術の向上と教育研究の充実に役立てるため、研究の一環として実施した。

○新任講師実践指導のための研修会の実施

新任講師の指導力向上を目的とし、実践的な指導が始められるための研修会を実施した。

○各種コンサートの開催

音楽の基礎的能力と豊かな感性を育むことを目的として、音楽教室生徒による各種コンサートを開催した。

Ⅲ 財務の状況

令和 6 年度決算の概要

令和 6 年度の決算報告書は、令和 7 年 5 月 29 日の本学園理事会で承認された。
学校法人会計基準に基づいて作成された収支決算の概要は以下のとおりである。

事業活動収支において、教育活動収支では、収入は在籍者数減少等により予算比マイナス約 1 億円強となり、支出は予算比約 4 億円少なく抑えたものの、旧女子寮解体に伴う固定資産除却等による支出増により、教育活動収支差額は約 9 億 4 千万円の支出超過となった。

教育活動外収支では、受取利息・配当金が増え、教育活動外収支差額は予算比プラス約 1 億円強の約 2 億 6 千万円の収入超過となった。教育活動収支と教育活動外収支を合計した経常収支差額は約 6 億 8 千万円の支出超過となった。

斯かる経常収支差額に、旧女子寮解体除却に伴う施設処分差額等を含む特別収支差額の支出超過約 4 億 7 千万円を加えた基本金組入前当年度収支差額は約 11 億 5 千万円の支出超過となった。

資金収支においては約 27 億円を翌期に繰り越すことができ、引き続き借入金もなく資金繰りに不安はない。運用資産については、本学園資産運用管理規則に基づき、信用度の高い公社債や上場株式、上場投資信託等により運用を行い、本年度末の時価総額は約 117 億円であり貸借対照表計上額約 103 億円を約 14 億円上回っている。

財 産 目 録
令和 7年 3月31日

I 資産総額	50,677,140,562 円
内 基本財産	29,227,913,346 円
運用財産	18,141,720,569 円
収益事業用財産	3,307,506,647 円
II 負債総額	3,507,409,911 円
III 正味財産	47,169,730,651 円

区 分		金 額
資産額		
1 基本財産		
土地	449,304 m ²	10,097,168,475 円
建物	78,703 m ²	15,665,472,103 円
図書	303,638 冊	1,102,065,643 円
教具・校具・備品	23,400 点	1,174,823,445 円
その他		1,188,383,680 円
2 運用財産		
現金預金		2,667,056,773 円
その他		15,474,663,796 円
3 収益事業用財産		3,307,506,647 円
資 産 総 額		50,677,140,562 円
負債額		
1 固定負債		
長期借入金		0 円
その他		1,805,476,627 円
2 流動負債		
短期借入金		0 円
その他		1,692,485,284 円
3 収益事業負債		9,448,000 円
負 債 総 額		3,507,409,911 円
正味財産(資産総額－負債総額)		47,169,730,651 円

貸 借 対 照 表

令和 7年 3月 31日

(単位 円)

資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	47,960,660,894	48,670,141,612	▲ 709,480,718
有形固定資産	29,380,424,008	30,020,085,594	▲ 639,661,586
土地	10,103,923,049	10,118,724,979	▲ 14,801,930
建物	15,665,472,103	16,677,999,000	▲ 1,012,526,897
その他の有形固定資産	3,611,028,856	3,223,361,615	387,667,241
特定資産	14,403,348,569	14,473,167,201	▲ 69,818,632
その他の固定資産	4,176,888,317	4,176,888,817	▲ 500
流動資産	2,797,130,472	3,240,372,265	▲ 443,241,793
現金預金	2,667,056,773	3,017,404,588	▲ 350,347,815
その他の流動資産	130,073,699	222,967,677	▲ 92,893,978
資産の部合計	50,757,791,366	51,910,513,877	▲ 1,152,722,511
負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	1,805,476,627	1,887,966,091	▲ 82,489,464
長期借入金	0	0	0
その他の固定負債	1,805,476,627	1,887,966,091	▲ 82,489,464
流動負債	1,692,485,284	1,610,094,129	82,391,155
短期借入金	0	0	0
その他の流動負債	1,692,485,284	1,610,094,129	82,391,155
負債の部合計	3,497,961,911	3,498,060,220	▲ 98,309
純資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
基本金	51,670,446,617	50,434,614,681	1,235,831,936
第1号基本金	45,976,574,048	46,753,413,480	▲ 776,839,432
第2号基本金	2,062,581,744	58,731,144	2,003,850,600
第3号基本金	3,361,290,825	3,352,470,057	8,820,768
第4号基本金	270,000,000	270,000,000	0
繰越収支差額	▲ 4,410,617,162	▲ 2,022,161,024	▲ 2,388,456,138
翌年度繰越収支差額	▲ 4,410,617,162	▲ 2,022,161,024	▲ 2,388,456,138
純資産の部合計	47,259,829,455	48,412,453,657	▲ 1,152,624,202
負債及び純資産の部合計	50,757,791,366	51,910,513,877	▲ 1,152,722,511

資金収支計算書

令和 6年 4月 1日から
令和 7年 3月 31日まで

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	2,377,973,000	2,354,947,200	23,025,800
手数料収入	27,600,000	30,474,654	▲ 2,874,654
寄付金収入	30,000,000	25,114,146	4,885,854
補助金収入	250,000,000	245,107,412	4,892,588
国庫補助金収入	150,000,000	141,255,100	8,744,900
地方公共団体補助金収入	100,000,000	103,852,312	▲ 3,852,312
資産売却収入	22,000,000	2,613,416,882	▲ 2,591,416,882
付随事業・収益事業収入	274,088,000	252,704,967	21,383,033
受取利息・配当金収入	123,000,000	247,447,840	▲ 124,447,840
雑収入	232,000,000	139,074,245	92,925,755
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,445,000,000	1,415,190,100	29,809,900
その他の収入	885,000,000	2,331,715,712	▲ 1,446,715,712
資金収入調整勘定	▲ 1,750,000,000	▲ 1,433,492,396	▲ 316,507,604
前年度繰越支払資金	2,201,730,000	3,017,404,588	
収入の部合計	6,118,391,000	11,239,105,350	▲ 5,120,714,350
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	2,279,135,000	2,173,334,392	105,800,608
教育研究経費支出	771,415,000	699,471,539	71,943,461
管理経費支出	646,968,000	587,432,229	59,535,771
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	0	516,158,820	▲ 516,158,820
設備関係支出	70,000,000	19,941,892	50,058,108
資産運用支出	30,000,000	4,520,071,922	▲ 4,490,071,922
その他の支出	405,000,000	307,675,432	97,324,568
〔予備費〕	(0)		
	200,000,000		200,000,000
資金支出調整勘定	▲ 280,000,000	▲ 252,037,649	▲ 27,962,351
翌年度繰越支払資金	1,995,873,000	2,667,056,773	▲ 671,183,773
支出の部合計	6,118,391,000	11,239,105,350	▲ 5,120,714,350

活動区分資金収支計算書

令和 6年 4月 1日から
令和 7年 3月 31日まで

(単位 円)

	科 目		金 額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	2,354,947,200
		手数料収入	30,474,654
		特別寄付金収入	20,333,824
		一般寄付金収入	929,722
		経常費等補助金収入	245,107,412
		付随事業収入	236,595,967
		雑収入	139,074,245
		教育活動資金収入計	3,027,463,024
	支出	人件費支出	2,173,334,392
		教育研究経費支出	699,471,539
		管理経費支出	587,432,229
		教育活動資金支出計	3,460,238,160
		差引	▲ 432,775,136
		調整勘定等	167,887,459
		教育活動資金収支差額	▲ 264,887,677
施設整備等活動による資金収支	科 目		金 額
	収入	施設設備寄付金収入	3,850,600
		施設設備売却収入	15,040,000
		減価償却引当特定資産取崩収入	2,000,000,000
		施設整備等活動資金収入計	2,018,890,600
	支出	施設関係支出	516,158,820
		設備関係支出	19,941,892
		第2号基本金引当特定資産繰入支出	2,003,850,600
		施設整備等活動資金支出計	2,539,951,312
		差引	▲ 521,060,712
		調整勘定等	13,828,000
		施設整備等活動資金収支差額	▲ 507,232,712
		小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	▲ 772,120,389
その他の活動による資金収支	科 目		金 額
	収入	借入金等収入	0
		その他の収入	2,710,817,633
		小計	2,710,817,633
		受取利息・配当金収入	247,447,840
		収益事業収入	16,109,000
		その他の活動資金収入計	2,974,374,473
	支出	借入金等返済支出	0
		第3号基本金引当特定資産繰入支出	8,820,768
		その他の支出	2,543,890,298
		小計	2,552,711,066
		借入金等利息支出	0
		その他の活動資金支出計	2,552,711,066
		差引	421,663,407
		調整勘定等	109,167
		その他の活動資金収支差額	421,772,574
		支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	▲ 350,347,815
		前年度繰越支払資金	3,017,404,588
		翌年度繰越支払資金	2,667,056,773

事業活動収支計算書

令和 6年 4月 1日から
令和 7年 3月 31日まで

(単位 円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		学生生徒等納付金	2,377,973,000	2,354,947,200	23,025,800
		手数料	27,600,000	30,474,654	▲ 2,874,654
		寄付金	21,000,000	21,263,546	▲ 263,546
		経常費等補助金	250,000,000	245,107,412	4,892,588
		国庫補助金	150,000,000	141,255,100	8,744,900
		地方公共団体補助金	100,000,000	103,852,312	▲ 3,852,312
		付随事業収入	257,288,000	236,595,967	20,692,033
		雑収入	232,000,000	139,074,245	92,925,755
		教育活動収入計	3,165,861,000	3,027,463,024	138,397,976
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		人件費	2,279,135,000	2,090,844,928	188,290,072
		教育研究経費	1,231,415,000	1,124,805,132	106,609,868
管理経費		846,968,000	756,436,668	90,531,332	
徴収不能額等		1,000,000	0	1,000,000	
教育活動支出計		4,358,518,000	3,972,086,728	386,431,272	
教育活動収支差額		▲ 1,192,657,000	▲ 944,623,704	▲ 248,033,296	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		受取利息・配当金	123,000,000	247,447,840	▲ 124,447,840
		その他の教育活動外収入	16,800,000	16,109,000	691,000
		教育活動外収入計	139,800,000	263,556,840	▲ 123,756,840
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
		教育活動外収支差額		139,800,000	263,556,840
	経常収支差額		▲ 1,052,857,000	▲ 681,066,864	▲ 371,790,136
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産売却差額	18,000,000	134,796,672	▲ 116,796,672
		その他の特別収入	9,500,000	4,652,015	4,847,985
		特別収入計	27,500,000	139,448,687	▲ 111,948,687
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産処分差額	0	611,006,025	▲ 611,006,025
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	0	611,006,025	▲ 611,006,025
	特別収支差額		27,500,000	▲ 471,557,338	499,057,338
	〔予備費〕		(0) 200,000,000		200,000,000
基本金組入前当年度収支差額		▲ 1,225,357,000	▲ 1,152,624,202	▲ 72,732,798	
基本金組入額合計		▲ 2,000,000,000	▲ 2,480,943,592	480,943,592	
当年度収支差額		▲ 3,225,357,000	▲ 3,633,567,794	408,210,794	
前年度繰越収支差額		▲ 1,920,030,000	▲ 2,022,161,024	102,131,024	
基本金取崩額		651,000,000	1,245,111,656	▲ 594,111,656	
翌年度繰越収支差額		▲ 4,494,387,000	▲ 4,410,617,162	▲ 83,769,838	
(参考)					
事業活動収入計		3,333,161,000	3,430,468,551	▲ 97,307,551	
事業活動支出計		4,558,518,000	4,583,092,753	▲ 24,574,753	

監 査 報 告 書

令和 7年 5月 28日

学校法人 武蔵野音楽学園

理 事 会 御 中

学校法人 武蔵野音楽学園

監事

濱田 芳貴 

監事

山本 正 

私たちは、学校法人武蔵野音楽学園の監事として、私立学校法第37条第3項に基づいて
同学園の令和6年度（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）における財産目録
及び計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び附属明細表）を含め、
学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務の執行の状況について監査を行いました。

私たちは、理事会その他重要な会議に出席するほか理事から業務の報告を受け、重要な
決裁書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続を実施いたしました。また、私立学校振
興助成法第14条第3項に基づき監査を実施した長谷川公認会計士事務所から監査の報告及び
説明を受け、計算書類等に検討を加えました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録
及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、
学校法人の業務又は財産の状況若しくは理事の業務の執行の状況に関し、不正の行為又は法令
若しくは寄附行為に違反するような重大な事実はないものと認めましたことを報告いたします。

以 上

監 査 報 告 書

令和 7年 5月 28日

学校法人 武蔵野音楽学園

評 議 員 会 御中

学校法人 武蔵野音楽学園

監事 濱田 芳 貴 
監事 いしづ 晃 

私たちは、学校法人武蔵野音楽学園の監事として、私立学校法第37条第3項に基づいて
同学園の令和6年度（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）における財産目録
及び計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び附属明細表）を含め、
学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務の執行の状況について監査を行いました。

私たちは、理事会その他重要な会議に出席するほか理事から業務の報告を受け、重要な
決裁書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続を実施いたしました。また、私立学校振
興助成法第14条第3項に基づき監査を実施した長谷川公認会計士事務所から監査の報告及び
説明を受け、計算書類等に検討を加えました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録
及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、
学校法人の業務又は財産の状況若しくは理事の業務の執行の状況に関し、不正の行為又は法令
若しくは寄附行為に違反するような重大な事実はないものと認めましたことを報告いたします。

以 上